

仙法志地区
直轄特定漁港漁場整備事業

完了後の評価(事後評価)結果準備書

令和6年度
北海道開発局

事後評価書（完了後の評価）

都道府県名	北海道	関係市町村	利尻町 リシリチョウ
-------	-----	-------	---------------

事業名	直轄特定漁港漁場整備事業（直轄漁港整備事業）		
地区名	仙法志 センホウシ	事業主体	国（北海道開発局）

I 基本事項

1. 地区概要

漁港名（種別）	仙法志漁港（第4種）	漁場名	—
陸揚金額	266 百万円	陸揚量	589 トン
登録漁船隻数	98 隻	利用漁船隻数	82 隻
主な漁業種類	まき網・コンブ類養殖・小型底びき網	主な魚種	ホッケ・コンブ類・ナマコ
漁業経営体数	52 経営体	組合員数	55 人
地区の特徴	仙法志漁港は、北海道日本海北部の利尻島に位置し、日本有数の好漁場である武蔵堆を近傍に控え、島内漁業生産の2割を占める生産拠点であるとともに、周辺海域で操業する漁船の漁業前進基地及び避難拠点としての役割を有する。また、当該地区は、利尻島の良好な自然環境に恵まれ国立公園に指定されており、観光も主たる産業となっている。		

2. 事業概要

事業目的	全国的に有名な利尻コンブやエゾバフンウニを代表に島内漁業生産の2割を占める生産拠点として、また、周辺海域で操業する漁船の漁業前進基地及び避難拠点として、衛生管理の強化を図るための岸壁、漁業活動の効率化及び就労環境の改善を図るための防風雪施設等の整備、荒天時にも安全な漁船避難を可能とするための防波堤等の整備を行うこととした。		
主要工事計画	南防波堤(改良) 186.0m、-3.0m岸壁(改良) 157.8m、船揚場 一式 ほか		
事業費	4,558百万円	事業期間	平成19年度～平成30年度

II 点検項目

1. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

<p>本事業では、平成25年に期中の評価を実施し、経済効果の妥当性について評価を行った。当時の算定基礎から、警戒等作業の対象隻数（71隻→40隻）、年間漁獲金額（175百万円/年→39百万円/年）、防風施設利用隻数（22隻→26隻）、避難漁船隻数（5隻→3隻）等見直しに加え、労務単価等の基礎データ更新により、費用便益比率は、平成25年の1.22から令和6年の1.20へと減少している。</p>

2. 事業効果の発現状況

<p>事業実施以前は、港内の静穏度が悪く、避難船の受け入れが出来なかった。また、衛生管理対策施設が未整備であり、陸揚げ時において日射による漁獲物の鮮度低下や鳥糞などの異物混入が課題となっていた。しかし、防波堤及び防風柵整備により、避難船の受入が可能となり、また、屋根付き岸壁が整備されたことにより、水産物の品質が向上し魚価の安定化が図られたことに加え、就労環境の改善が図られた。</p> <p>現時点での費用対効果分析の結果は1.0を上回っており、一定の効果発現が見られる。</p>

3. 事業により整備された施設の管理状況

<p>本事業により整備された施設は、漁港管理者である北海道に管理委託等を行い、適正に漁港の維持、保全、運営その他の漁港の維持管理を行っている。</p>

4. 事業実施による環境の変化

騒音、振動、水質汚濁等の環境への影響を配慮した施工が行われており、事業実施による環境の変化は生じていない。

5. 社会経済情勢の変化

主要魚種の不漁が続き、生産量は低迷しているものの、磯根漁業の生産額が安定しており、漁業経営の安定化が図られている。また、利尻町では、新規就業者に対して報奨金を支給する取組を行ったり、北海道漁業就業支援フェアに毎年参加したり、新規就業者に対して漁船や船外機を貸し出す取組や燃料チケットを支給する取組を行っており、近年も毎年1～2名の新規就業実績があることから、後継者が確保されている状況にある。

6. 今後の課題

本事業により、小型船との混雑利用が解消され、静穏度確保により避難港としての安全性が確保された。また、衛生管理対策により漁獲物の付加価値化が図られた他、船揚場の整備により、漁業活動の効率化に繋がった。

今後は、登録漁船数等の推移を見ながら、施設の機能保全等を適切に行っていく必要がある。

平成25年評価時の
費用便益比B/C

1.22

現時点の
B/C

1.20

※別紙「費用対効果分析
集計表」のとおり

Ⅲ 総合評価

本事業では、利尻・礼文圏域の流通拠点として重要な役割を担い、避難拠点として安全な漁業活動の支えとなっている仙法志漁港において、港内静穏度向上を図るための外郭施設・防風柵、水産物の品質・鮮度保持を図るための屋根付き岸壁、漁業活動の効率化・安全性向上を図るための船揚場や係留施設等の整備を行った。

貨幣価値化が可能な効果について、費用対効果分析を行ったところ、費用便益比は1.0を超えており、経済効果についても確認されている。

また、貨幣価値化が困難な効果についても、漁港施設を活用したイベント開催や仙法志産漁獲物を活用した利尻漁業協同組合の直売所での販売、仙法志漁港に隣接する観光施設「神居海岸パーク」の利用促進など、地域振興への貢献と地域経済への波及効果が確認されている。

以上の結果から、本事業は仙法志漁港において漁業経営の安定及び地域経済の振興に寄与したものとなっており、想定した事業効果の発現が認められた。

費用対効果分析集計表

1 基本情報

都道府県名	北海道	地区名	センホウシ 仙法志
事業名	直轄特定漁港漁場整備事業	施設の耐用年数	50

2 評価項目

	評価項目		便益額（現在価値化）	
	便益の評価項目及び便益額	水産物の生産性向上	①水産物生産コストの削減効果	2,051,777
②漁獲機会の増大効果				千円
③漁獲可能資源の維持・培養効果				千円
④漁獲物付加価値化の効果			66,970	千円
漁業就労環境の向上		⑤漁業就業者の労働環境改善効果	13,628	千円
生活環境の向上		⑥生活環境の改善効果		千円
地域産業の活性化		⑦漁業外産業への効果		千円
非常時・緊急時の対処		⑧生命・財産保全・防御効果		千円
		⑨避難・救助・災害対策効果	9,031,382	千円
自然保全・文化の継承		⑩自然環境保全・修復効果		千円
		⑪景観改善効果		千円
		⑫地域文化保全・継承効果		千円
その他		⑬施設利用者の利便性向上効果		千円
		⑭その他		千円
計（総便益額）		B	11,163,757	千円
総費用額（現在価値化）		C	9,334,954	千円
費用便益比		B / C	1.20	

3 事業効果のうち貨幣化が困難な効果

・ 漁業と観光との連携による都市交流機能の向上に伴う地域振興